2024 年 10 月 6 日

第１回　よくわかる『資本論』第二巻講座ニュース

―『資本論』で見透す未来社会―

『資本論』講座東京協議会　第二巻運営委員会

はじめに

いよいよ、よくわかる『資本論』第二巻講座がスタートします。情勢は石破自民党内閣が発足しましたが、表紙を変えてもその中身は全く腐りきった政権と言わざるをえません。この政権に追随する勢力も含めて総選挙では痛打を与えて、明るい未来社会につながるような結果をつくりだしていこうではありませんか。さて、政治情勢は目まぐるしく変動しますが、それらを規定する経済的土台構造がどうなっているのかを解明するのが、私たちがすすめる『資本論』学習運動です。学習しなければ本当の事が分からないし確信もわいてきません。地道ですが確実な学習を進めてまいりましょう。

１ガイダンス講義内容

第１に、『資本論』全体の概略について講義して頂きました。第１巻は生前マルクスの手によって刊行されましたが、第 2 巻、第 3 巻はエンゲルの精魂を傾けた編集によりようやく 1894 年に刊行が終わりました。エンゲルスはその翌年に亡くなっています。その後、マルクスとエンゲルスとの食い違いについて絶えず攻撃にさらされてきました。それらの階級的政治的背景を解明し、学術的にもその到達点を明らかにするのが講義の目的となります。

第２に、第２巻の位置づけです。第１巻は、「資本の生産過程」でありあくまで資本家は如何にして剰余価値を生産するのか？そのことに焦点をあて徹底した解明をします。そこでは労働者階級と資本家階級の対立構図が明らかとなります。第３巻では、社会の富がどのようなかたちで分配されていくのか、具体的な現象形態が解明されていきます。第二巻はその中間にあり「資本の流通過程」を解明します。すなわち G-W〈A+Pm〉…P…W’-G’という資本価値がその独自性を維持しながら循環と回転をくりかえして自己実現し増殖していくのか。同時にいかにして社会的な再生産を実現していくのかという、もっとも資本主義経済の奥深い構造を一つ一つ解明していきます。同時に未来社会の計画経済の土台にもつながります。

第３に、未来社会で剰余労働はなくなるのか？『資本論』にもとづき精確に解明しました。単純再生産を前提とした「予備＝蓄積元本」に充当される剰余労働部分と拡大再生産を前提とした豊かな社会の源泉である剰余労働を混同してはならないのです。

２本日の講義内容

エンゲルス編集「序言」。遺稿材料の編集方針。マルクス剰余価値説の特色。

◎質問感想Ｅメール shihonrontk2@gmail.com